



飯尾理事長より新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。
昨年の上世屋にとっては大きな出来事がたくさんありました。丹後天橋立大江山国定公園の指定で世屋高原地区がその中央に位置し、棚田景観が評価されました。天橋立の世界遺産登録に向けて、一覧表に記載資産候補として、銚子の滝の傍らにある観音堂（成相寺の奥の院）が選ばれました。瀬尾まいこさん原作の『天国はまだ遠く』の撮影が行われ、ぶーたんがキャストの休憩所になりました。

世屋が注目を浴びるようになることは嬉しいことではありますが、国定公園にしても世界遺産にしても、地元に住んでいる人達にどんなメリットがあるかを考えると、なかなか浮かんできません。もう10年いや20年早くそういう話があれば、地元の活性化に繋がることが考えられたでしょうが…。

近い将来（15年以内）、先進国では日本が最初に食糧不足になることが考えられます。そうなった時、農業をしている人が一番輝くことになります。いっぱいいる猪（昨年松尾地区では檻に40頭もの猪が入ったそうです）と農産物でまさに自給自足の生活が可能で、猪と魚を交換することで新鮮な魚を食べることも可能です。世屋の魅力は海に近いことでもあります。新潟魚沼のコシヒカリに匹敵する美味しいお米も取れます。

そのためには耕作放棄が進む棚田の維持がどうしても必要です。2年間作られなかった田を再開するには3倍の労力が必要とされています。日本人は米を食べる量が40年前の半分の1年で60kgになっています。また現在の日本人は世界中のどの時代のどの国の王侯貴族よりも贅沢な食生活をしている（朝日新聞）というも過去の話で、もう10年もしない内に、米を食べる量は増える可能性が高いと考えられます。こういう悲観的とも言える考え方（悲しいかな私はこの可能性が高いと思うのですが）をする人は今のうちに住む所を考えたほうがいいと思います。地球温暖化の影響で上世屋の積雪も少なくなって道路が雪で閉ざされることも少なくなり、今よりも快適な生活が可能になります。

磯田さんから新年の挨拶をとということで書き始めましたが、おかしな方向に話が進んでしまいました。今年もよろしく願いいたします。（飯尾毅）

季節の便り ～2008年の干支～



▲サネカズラ（マツブサ科）

山野の林縁に生え、他の植物に絡みついて伸びる日本を代表するカズラ。実は漢方薬に使われることがありますが生食はできません。

ネズミは十二支の最初の子（ね）にあてられ、インド・ヒンドゥー教では、商売繁盛の神様と敬われ、ネズミも聖なる生物とあがめられているそうです。

十二支とは、元々は十二年で天を一周する木星（または、木星に比した想像上の星、歳星）の年ごとの位置を示すために十二分した天を表す、古代中国の天文学での数詞（「1、2、3…」や「a,b,c…」のようなもの）だったと言われています。つまり、木星が申の天宮（区画）にある年なら申年、というわけです。十二支の一回りとは、木星が軌道を一周する期間を意味しているのだそうです。（正確には11.86年で一周するそうです。）山で暮らすネズミは、ドングリを餌として集め、土中に埋めたまま忘れてしまう性癖があり、ドングリはやがて芽を出し、木に育っていきます。ネズミたちの森づくりへの貢献度は高いようです。（河嶋英一）

□■ イベント・会議のご案内 □■

*同封のちらしをご覧ください。

*会員特典のご案内

開催日	イベント名	特典	条件
2/17	雪の森トレッキング	参加費：1,000円	用具持参の方
3/2	おじいさん直伝！ わらぞうり作り	参加費：1,500円	NPO 会員
3/22	里山で「きのこ」づくり	当日参加出来なくても、 ほだ木の確保を申し受 けます。詳細は要相談。	NPO 会員

活動報告① 世屋地区運動会&収穫祭

日時：2007年11月4日（日）9:00～14:00 場所：世屋地区公民館

世屋地区運動会&収穫祭に参加して

大岸 万里子

そうだ、世屋地区運動会がある！と思い出し、急遽、前日になって久しぶりの世屋に向かいました。

公民館で、豚汁とカレーの仕込み中の橋本さん夫婦と磯田さんに会いました。こういう方々の存在があって、活動が支えられていることを改めて感じました。

運動会がすごく楽しみで、毎年出席できることが、嬉しい。以前、地区の方々にそう伺っていました。しかし今年の上世屋は、ミヤコワスレという花の苗の出荷準備があり、大部分が欠席されるとのことでした。そのため、毎年運動会後に開催されている慰労会も今年は行わないとひどくがっかりしていらっしゃいました。昔と比べたら、労力の面からだいぶ減っている集落行事。皆が集い、集落としてのつながりを感じられる場が、本当に求められていると思いました。

運動会当日。駐在さんファミリーや、お孫さん連れで参加される若いご夫婦たちが想像以上に多く、子ども達が走り回る様子に、おじいちゃん・おばあちゃんも目を細めていらっしゃいました。競技種目は、恒例の「私、これ得意！」といって張り切って参加でき



るものから、輪投げのようなおそらく今年初のものまで、10種目に及びました。内容も、体力勝負の

ものではなく、ゆったりしたものばかりで、途中で休憩も挟まれ、高齢の方に向け、かなり配慮のなされた構成であることを感じました。

今年は赤組＝木子・松尾・上世屋、白組＝下世屋・畑集落に分かれて戦いました。みんな、手に汗握って応援し、赤組の大勝に終わりました。高揚感に包まれました。



昼食時には、豚汁の仕出しや、カレー・おこわ・ふきの佃煮の販売がありました。午前中からの美味しそ

うな香りに誘われて、行列ができました。特に豚汁はあつという間になくなりました。私は、カレーを頂いたのですが、新米もルーも本当に美味しく、ぺろっと平らげてしまいました。その様子を見た上世屋の達雄さんが、「これも食べい」と、お弁当を差し出して下さいました。新米おにぎりも、丁寧に巻かれたふわふわ卵焼きも、綺麗な焼き目のついたウインナーも、遠慮なく、たくさん頂きました。世屋にいと、お料理が本当に美味しいです。それは、お米のように自分で作ったものに対する愛情や苦労が感じられるとともに、「食」に対し真摯に向き合っているからでないかと思ひます。「食べることは生きること。なんとか食べなくてとは必死に生きてきた」ということも、伺ひます。本当の貧困の実感は伴えない世代の私でも、

地区の方々との関わり合いを通じて、その言葉の意味をうつつらとながらも教えて頂いている気がします。

午後の収穫祭では、見事なお野菜たちが並びました。皆さん真剣に品定めをされ、販売が開始されるとすごい勢いで完売してゆきました。自分の作ったものを、みんながほめてくれる、喜んでくれる。大きな喜びなのだろうな、と感じました。私も黒大豆の枝豆をサービスしていただきながら家族へのお土産に買ひました。素朴で、味が詰まっひて、実に美味しかったです。

是非、来年からも何らかの形で参加し続けたいなと思ひます。様々なことを考えさせられ、そしてとても楽しい1日でした。開催に当たっては、運営される方々の非常な苦労があつたことと思ひます。本当にありがとうございました。

活動報告② 里山で「きのこ」づくり 第一回：ほだ木をつくろう

日時：2007年11月17日（日）

講師：芦田さん（福知山） 場所：世屋高原家族旅行村しおぎり荘

参加者：会員4名、非会員15（うち子7）名 計18名

前野庄作、河嶋英一、飯尾毅、居村真・和香子・まあや・たくま・まひろ、植田友香理・小晴・真平、中村邦雄、岸本征夫、国安里子、山本健二、小倉道弘、石山詩織・樹、磯田有美恵
 <順不同・敬称略>

心配されていた雨も去って、気持ちの良い秋晴れの中での開催となりました。宮津、京丹後、与謝野町、久美浜など丹後一円から参加していただき、子供からきのこづくり経験者まで様々な人々が集まりました。

まずは、講義から。きのこづくりのいろはを教わりました。そしてしおぎり荘の裏の森へでて作業開始。3月にきのこの菌を打ちつけるための木を切り出し1mの長さにそろえる作業です。みなさんモクモクと切って切って…時にきのこ観察。

視線が低いためか子ども達はきのこ探しが上手。



「これ何ですか？」と芦田さんに教えてもらいながらたくさんのきのこを集めました。木の切り出しは午後までかかり、一箇所に集めた丸太はなんと百以上になりました！「木ってこんなに重いのね～」と実感しつつみなさん汗を流しながらしっかり働いていただきました。本当にお疲れ様でした！

次に集めた丸太を使って、ほだ木の組み方について教えていただきました。芦田さんに披露して頂く組み方に参加者はただ感心！「ほお～」「なるほどね～」と声があがっていました。そして実際に参加者も組んでみることに。「見てると簡単そうなんだけどねえ～」と3月に向けて身体でしっかり覚ええました。ほだ木となる丸太は乾燥させるため積んでおきました。きっと今頃雪の中ですね。





きのこ作りには湿度のある木漏れ日しかささないような場所が適しているのかと思いきや、「こんなに日が当たっても大丈夫？」と思うような場所でも「こんなところもいいですね」

と芦田さん。きのこ作りのプロである芦田さんの経験知から教えていただくきのこ作りの世界は驚きが多く、3月にいよいよ菌を打つのが楽しみです。

開催数日前に急遽、講師を芦田さんをお願いするなど事務局の至らぬ点が多い実施となりましたが、参加者のみなさんのおかげでよい一日となりました。ありがとうございました。3月のみの参加も大歓迎ですので、申込みお待ちしております。
(事務局・磯田)

活動報告③ ぶーたんの雪囲い

日時：2007年12月1日(土)

参加者：会員6名、非会員4名(飯尾醸造) 計10名

梅本悦二、小林康司、丹羽建二、飯尾毅、秋山俊朗、伊藤浩二、山添武司、三好利文、相見豊、磯田有美恵<順不同・敬称略>



みなさんのお陰で雪囲いが無事終了。12月は取り外したくなるような暖かさでしたが、年末からやっと雪が降り始めて今ではすっかり雪景色です。

編集後記

いよいよ二〇〇八年がスタートしました。

事務局スタッフとしてお仕事を始めて半年が過ぎました。団体の事も世屋の地域のことともよく知らない手探り状態でのスタートで、みなさまに迷惑をかけてばかり、助けいただき多くの事を学ばせていただいた半年でした。

そして、改めて感じることを――
「里山ネットワーク世屋Ⅱ世屋を介した人のつながり」なんだと。やつと実感として解ってきたように思います。

今年も

一、よく食べ

一、よく寝て

一、よく動く

を心に、至らぬところばかりですが、みなさんと一緒にわ

くわくする事をや

つていければと思

います。

どうぞよろしくお

願いいたします。

磯田ゆみえ

磯田ゆみえ

NEWS LETTER ニュースレター No.19

発行：NPO 法人里山ネットワーク世屋 理事長 飯尾毅 編集：磯田有美恵
印刷協力：(株)飯尾醸造 発送：上世屋事務局

NPO 法人里山ネットワーク世屋

●事務局 〒626-0052 京都府宮津市小田宿野 373 (株)飯尾醸造内
電話：0772-25-0015 FAX：0772-25-1414 (秋山)

●上世屋事務局 〒626-0227 京都府宮津市上世屋 560-1
電話/FAX：0772-47-3540 メール：bhutan@mx.e.nkansai.ne.jp (磯田)